

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かけ		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。「木かけに入居して本当に良かった」と、入居者さんやご家族さんにとって頂けるホームを目指しています。また地域に木かけを積極的にアピールしています。私たちの理念は「笑う門には福来る」です。

「笑う門には福来る」の理念が浸透しており、利用者の健康と楽しい生活に繋げていることがうかがえる。事業所の便りからも、利用者と一緒に過ごすことに力を入れていることが読み取れる。ホームで看取りを希望する家族は多く、今年度も3名の看取りをおこなったが、他の利用者が励ましたり、家族にも見守られて穏やかな終末期を支援した。地域との関係性も構築できており、認知症について地域住民から相談を受けたり、社会福祉協議会で講義をするなど、ホームの持てる力を地域に還元している。また、近隣の人が植木の世話に来てくれるなど、日常的に交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	木かけの理念「笑う門には福来る」を管理者、全スタッフにて共有・実践している。	理念「笑う門には福来る」は職員の目に入る事務室、玄関に掲示するとともに、Tシャツに理念をプリントして全職員が着用している。笑いが免疫力を高めることにもつながることを意識して、日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ禍という事もあり、地域の方々との対面でのやり取りは控えているが、長年関わって下さっているボランティアさん等とは、電話や手紙などで、交流を図っている。	認知症について地域住民から相談を受けたり、社会福祉協議会で講義をするなど、ホームの持てる力を地域に還元している。近隣の人が植木の世話に来てくれるなど、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が行っている。地域の方の相談にのったり、地域住民の方たちに認知症の理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍と言うことで、対面での会議は控え、各推進委員の方々より、電話や文書で頂いたご意見・ご要望に対し、文書にてご回答や木かけからのお知らせをしている。	地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域住民、利用者家族の参加で年4回開催し、ホームの実情を報告し、参加者と意見交換をして運営に反映している。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、電話、書面で意見交換し、記録を残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が行っている。疑問・質問など快くお答えいただいている。緑区担当の方にとてもお世話になっています。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している。感染対策や災害対策などについて相談したり、助言を得るなど、常に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「何が、どんな事が身体拘束に当たる」のか、日常の中で、管理者や先輩スタッフなどがそのシーン毎に伝え、身体拘束に当たることをしないようにしている。勉強会も行っている。	身体拘束委員会を設置して、3か月に1回委員会を開催し、事例をもとに意見交換し、身体拘束をしないケアにつなげている。日常的に、気が付いたことを、疑問として職員に投げかけ、振り返りをおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、「なぜしてはいけないか」当たり前のことだが、虐待をしてはいけない理由などを伝えながら、「自分がされたいやなことほしくない」このレベルから、虐待防止に努めている。勉強会もしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と言う素晴らしい制度があることは、管理者から聞かされたりしているが、深く学ぶことはしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。見学に来ていただいた時から、困っていることなどをご家族が相談できるようにしている。契約の際は、管理者2名により、重要事項・契約書の説明を行い、納得を得られた後に入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当スタッフからの定期的なご連絡の際、ご要望を聞くようにしている。面会が出来ない状態になっているので、電話やメールなどにて、お知らせなどをし、意見を伺っている。	居室担当者が定期的に家族に連絡し、意見を聞いている。コロナ禍により、現在は対面で意見を聞くことができないが、電話やメールで意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者にて定期的な会議を行い、その場にて職員からの要望などを管理者が、代表に伝えている。代表は聞き入れてくれ、職員からの要望は反映される。	職員から意見や提案があった場合は、案件によっては管理者から法人に繋げる仕組みがある。業務会議やユニット会議での意見から改善に繋げた例もある。また、管理者が年1回、個別に面談し意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、スタッフの給与水準が、近隣の施設と同じか上回るように心がけてくれている。賞与等は、スタッフの能力に合わせ査定のため、やりがいをもち精進してくれているスタッフがいる。労働時間は、融通をきかせてくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な機関から研修案内が来ると、管理室に掲示してくれ、スタッフが研修に申し込めるようにしてくれている。休み希望も優先してくれている。今年は、新型コロナウイルスの影響で研修等の参加はしていない。参加できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により、対面では行っていない。早くコロナが収束し、相互訪問等が行えるようになってほしい。管理者は他施設との交流(電話やライン等)を図り、情報をスタッフに流してくれている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族さんから情報(ご本人が困っているであろうこと)を頂き、入居前に話し合いを行い、ス情報の共有をするが、入居してから、日々のさり気ない会話の中から、「今、ご本人が困っていることを聞けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が行っている。入居の問い合わせの段階から、様々な相談にのったりしている。「入居を決めるのは、他施設を色々見学していただき、納得をしてから木かげを選んでください」と伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が行っている。ご家族のご要望を伺い、必要であろうサービスの提案をしたり、入居前に使えるサービスのアドバイスなどもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の様々なシーンで、その方の出来る事を、スタッフと一緒に行っていただいている。家族のような友達のような、たまに友達感覚が、過ぎてしまう場合もあるが、ご本人と共に過ごし支えあうことが出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は、コロナの影響で外出が出来ていないが、外出イベントやホーム内イベントに参加、支援をしていただいている。今年は、電話や窓越しの面会しかできていないが、ご家族との絆も大事にできていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中で、馴染みの方のお名前などが出た場合、スタッフから「〇〇さんに電話してみますか」と伺い、直接電話をしていただいている。賀状の交換もしている。	利用者の生活歴を職員間で共有しており、関係性の継続に努めている。年賀状を出すときに手伝ったり、家族と外出する場合はホームから現地まで送迎をするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状では、入居者さん同士が馴染みの関係が出来ているので、特にスタッフが間に入るようなことはしていない。話がかみ合わなかったり、気まずい雰囲気などになりそうなときは、スタッフが間に入り関りがうまくいくようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	木かげの場合、ほとんどの方がサービス終了は死亡退去のみとなっているが、ご家族は時々遊びに来てくれたり、季節の美味しいものを持ってきてくださったりしている。退去後も、他の入居者さんとも馴染みの関係が保てている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を尊重している。こちら側の要求に拒否があるような場合、時間を置き、なるべくご本人のタイミングに合わせられるよう支援している。	時には方言を使うなど、利用者に合わせた話し方でコミュニケーションを取っており、日常の会話の中から意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前になるべく早い段階で、ご家族から情報を頂き把握に努めてい。今までの暮らしとかけ離れすぎないように考え、支援していると思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録や申し送り事項などを活用し、その日その日の入居者さんのご様子・状態などを記録に残し、個人の能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、ご家族・ご本人からご要望を聞き、ご家族・職員・ご本人と、会議を開き話し合い支援に反映できるようにしている。今年は、対面での会議が出来なかった。	居室担当職員、ケアマネジャー、家族等が出席してカンファレンスを実施している。コロナ禍の現在は、テレビ電話などを利用して会議をおこなっている。半年に1回、居室担当職員とケアマネジャーでモニタリングをおこない、計画を見直しており、状況に変化があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき支援を実施できるように心がけているが、職員間の共有がうまくいかないことが時々ある。まずは、実践を確実なものとし、介護計画の見直しに結び付けられるようにする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして出来る限りのサービスを心掛けている。多機能化の部分が今一つ分かっていない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年だと、様々なボランティアさんが、定期的に来てくださっていたが、今年はコロナの影響にて、皆さんにご遠慮願っているが、管理者が定期的に連絡を取り合っている。お手紙を頂き、電話でお話させていただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用しているので、365日・24時間の対応で安心している。	協力医療機関による24時間365日の体制があり、訪問看護とも連携している。眼科など専門医への対応は家族に依頼している。また、訪問歯科が月1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師は、現在病気療養中の為休職中だが、ラインや電話にて相談できることもある。訪問看護さんに関しては、主治医と連携していて、こちらのご要望を主治医に伝えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療連携シートを活用し、病院側に情報を流せるようにしている。また、入院中だけではなく退院支援など、病棟や地域連携室と管理者がやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学・説明の際や契約時などに、木かげの見取りについての説明をし、「どのような最期にしたいのか」の確認を管理者口頭で行っている。いざその時期になったところに、再確認を行い場合により書面にて約束事を作成する場合もある。	家族に向けて「重度化になられた場合に木かげで出来ることをお伝えします。」という文書で分かりやすく終末期の対応をすることを伝えている。今年度も3名の看取りをおこなったが、他の利用者が励ましたり、家族にも見守られて穏やかな終末期を支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。その他に、日々の出来事のその場の場で、何かを例にとりプチ勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練は行っているが、コロナの影響もあり、今年は近隣の方が参加しての訓練は行っていない。普段お世話になっているボランティアの方々とは連携が取れるようになっている。	年2回、火災と夜間を想定して避難訓練をおこなっている。昨年度の台風被害では4日間の停電を経験した。その経験から非常用安心設備や2週間分の水、食料などを準備し、近隣に災害時には使用できる旨の手紙を配布した。	近隣との関係性も構築できているが、今年度はコロナ禍で、地域住民と一緒に訓練ができていない。引き続き地域との関係継続が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生まれ育った環境やご本人の誇りなどを大切に、入居者さん一人一人に合わせた話し方をしている。	呼称、言葉などは利用者に合わせており、時には方言で話すこともある。また、居室に入る時には、必ず声掛けノックをするように心がけている。接遇については新人マニュアルにも組み込んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの方には、ご自分の意見や希望を言える環境にあると思う。自己決定が出来るよう、なるべく皆さんが答えられるようなクエスチョンにしている。表現が難しい方には、顔の表情などで、こちら側で解釈させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の事は日課とさせて頂いているが、ほとんどは、入居者さんの自由にさせていただいている。特に、どのように一日を過ごしたいかを伺うのではなく、入居者さん本位で過ごさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服選びは、ほとんどの方(特に女性の方)、ご自分で決めていただいている。アンバランスになってしまうようなときにはさり気なく支援している。マニキュアなどのおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは配膳など、出来る方には可能な限りお手伝いして頂いている。食器洗いや洗濯ほし・洗濯物たたみ等、出来る事をしていただいている。スタッフと共に、遣り甲斐をもって手伝ってくれていると思う。	食材を届けてもらい、昼と夜は調理師がつくっている。パンが食べたいという希望にはおやつをパンにしたり、現在はコロナ禍で難しいが、外食で海鮮を食べたりファミリーレストランに出かけたり、庭でバーベキューをするなど、食事が楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態や量にて提供できている。食欲がないときなど、時間を空けて再提供や補助食品などを提供している。お箸やスプーンなど出来る限りご自分で食べられるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。歯ブラシや、うがい、その方によっては、吸引歯ブラシの使用をし、残渣物がないよう口腔ケアを行っている。月一回の訪問歯科にて、専門的に口腔ケアを行っている。毎日入れ歯洗浄剤使用。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	骨折の恐れがあり、ご家族のご要望にてベッド上でおむつ交換の方以外は、皆さんトイレにて排泄を行っている。ご自分の意志でトイレに行ける方は、行きたい時に行っている。チェック表を利用し声掛け誘導している。	トイレに座ることを基本としており、利用者の状況に合わせてタイミングで声掛けしたり、定時に誘導するなどしている。自宅ではおむつだった利用者がホームに来てからリハビリパンツに移行した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因について、管理者が色々教えてくれている。便秘予防として、食事中にオリゴ糖をとったり、おやつにバナナなどの繊維質の物を取り入れている。冷え対策もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番など、その日その日に状況に合わせて決めている。一番大事にしているのは、「今日入りたい方に入ってもらえる」ようにしているが、なかなか日にちが空いてしまっている方を優先してしまうことが多いように思う。	出来る限り、利用者の意向に沿うようにしており、中には週3回～4回入浴する人もいる。季節のゆず湯やしょうぶ湯の他、にぎり湯なども提供している。入浴時は職員と利用者がゆっくり話せる時間として大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室で休んで頂いている。安眠に関して、入眠時間はご本人にお任せしている。スタッフのお手伝いをしてくださる方やテレビを楽しまれる方、早めに休まれる方様々。就寝前に足浴を実施している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほとんどのスタッフは、その方が何の為に薬を飲んでいるか位は把握できていると思う。管理者や先輩が、薬の効能や起こりうる副作用などを教えてくれる。薬剤師さんが来てくれるため、聞きたいことを聞くことが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たまに普段と違うメニューの時に、お酒など飲んで頂くこともある。魚をあまり好まれない方には、栄養分を考えたようなものを代替えとしている。日常会話の中から、入居者さんの食べたい物等を伺い、たまにメニュー変更をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年は、コロナの影響で、ほとんど外出していない。	これまでは、勝浦のひな祭りに出かけたり、河津桜を見に行くなどしていたが、コロナ禍の今、なかなか外出ができない。しかしながら、近くの遊歩道を散歩したり庭で日光浴をしたり、運動不足にならないよう、午前午後体操を取り入れるなど工夫している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談をし、無くなってしまっても構わないと言われる方のみ、お金の所持をいただいているが、基本的には、お金の持ち込みは行っていない。外出時には、少額だが、ご本人にお渡し、使用してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を頂いた際は、ご本人にお返事を書くかどうかお尋ねし、書いて頂いている。めんどくさいと言われる方には、電話をいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく不快な音などを立てないように気を付けているが、聞きたくない会話(スタッフのみの会話など)などへの配慮が足りないと思う。皆さん、就寝までの間をほとんどリビングで過ごされるので、さほど居心地が悪くないように思う。	共用空間は1時間に1回換気をしており、清潔で寛げる空間となっている。両ユニットに面した庭には地域のボランティアが植えてくれる花が見えて、季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には、自由に居室に行っただけしている。現状では、気の合う仲間(グループ)が、出来ているので、楽しく過ごせていると思う。時々、行き違いになりそうな場合は、早めにスタッフが間には入れていると思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族になるべく「今まで使用していたもの」の持ち込みをお願いしているが、入居に合わせ新しくしたいと考えているご家族が多く、ご本人の使い慣れた馴染みの物は少ない。	ベッドとクロゼットは備え付けであるが、仏壇や家族の写真、趣味のお習字や編み物の道具を持ってきている人もいる。過去には、自宅と同じように布団を敷いて生活する利用者もいたことがあり、寛いで過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下など、手すりを利用できるように多めに設置している。食後の下膳など、安全を確保しながらご本人に行っていたい。洗濯乾しは、ポールをその方の背丈、手の伸びる高さに調節しながらできていると思う。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと